

分野 ( 2 ) 気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究

研究課題名 : 気管支ぜん息患者の効果的な長期管理支援のための患者  
アセスメント手法と評価に応じた患者教育プログラム

申請課題名 : 気管支ぜん息患者の効果的な長期管理支援のための患者アセスメント  
手法と評価に応じた患者教育プログラム

調査研究代表者氏名 : 大矢 幸弘

評価コメント

- ・テイラー化プログラムの有効性を多くの項目について詳細に検討したことは評価できる。
- ・時代にあったツールを用いた患者教育法の開発である。
- ・アドヒアランスも向上した。
- ・小児ぜんそく患者及び家族の自己管理のための教育において実効のある教育方法としてのテイラー化教育は、重要であり、ITを活用した興味深い研究である。
- ・平成24年度に作成したテイラー化患者教育プログラムを検証したのを受けて平成25年はタブレット化を進めた。この結果インターネットアクセスを可能にし、毎回ちがうプログラムを利用することが可能になった。
- ・以前から開発してきたテイラー化した教育プログラムを用いて、その有効性の検証、実用性の評価を行った。またマンネリ化への対策やタブレット端末の利用など新しい取り組みや工夫を行った。その実用性をアンケート調査で検討したところ良い反応であった。これらにより患者のコントロール状況がどのくらいよくなったのか、薬物の適性使用が図れたかなど臨床での効果を見る必要がある。
- ・テイラー化といってもどこまで個別化するのがより有効かについては、今後の喘息の改善効果の検証が必要であろう。
- ・ほぼ所期の目的が達成されたと思われる。
- ・目的はほぼ達成され、成果が得られていると思われるが、結果が継続的に記録できるようになれば、さらに良いと思われる。
- ・もう少し有効性が高くなるようなプログラムを作成することが望ましい。
- ・インターネット配信も検討されているが、その普及とともに、患者・保護者と対面してプログラムを的確に推進する体制についても踏み込む必要があると思う。
- ・プログラム作成において、作成する側の負担を減らすために、テイラー化教育を実施する個々の医療機関共通の部分と特異的な部分とをどのように対応するのかについて検討が必要ではないか。

・患者教育は繰り返しが必要であるが、テイラー化プログラムを長期間活用していくような方法を検討することが大事である。

・立派なプログラムが出来ているので、今後は広く一般的に活用してもらえ、御尽力ありたい。